



信太の森ニュース

No. 34
2019年9月30日

文責 田丸八郎



1

市有地内ツツジの丘で約10年ぶりにオミナエシが咲きました

信太山丘陵のこの夏は、秋の七草の代表格キキョウ、オミナエシが見事な花を付けて楽しませてくれました。

キキョウはこれまで毎年数株の開花を確認していましたが、今年は24株とこれまでにない数が確認され、その内18株が花をつけて比較的長い間花を楽しませてくれました。

オミナエシは、市有地中央部の一か所で毎年貧弱なものが1、2本咲いていたのが、今年は全く花茎を出しませんでした。ところがツツジの丘では10年ぶりに姿を見せ、それも9本の株立ちでみごとに開花してくれました。10年前のものは、ひよろひよろとした貧弱なものが一本だけで、その後姿を見せず、長年発芽を期待していたものです。来年もこの見事な花を見せてほしいのですが、何故なのか翌年から姿を見せない可能性もあります。

11年前に惣ヶ池湿地の畔でオミナエシが1本咲きましたが、その後その花が咲いた記録はありません。

大阪府では岩湧山で毎年3月頃に山焼きが行われています。その結果、良質のススキや秋の七草と言われる花々が毎年観察されるそうです。

ツツジの丘は2年前に放火されました。ツツジはダメージを受けましたが、翌年ホソバリンドウが沢山咲いたこと。ツツジの丘では毎年キキョウは2株くらいしか確認されていなかったものが、今年は8株が増えて花をつけたこと。そして今年オミナエシの開花したことを考えてみると2年前の放火が「山焼き」効果となって結果的に今年の開花に繋がったのではないかと考えることもできます。

ツツジを保護しつつ「山焼き」することも検討に値すると思います。

NPO法人 信太の森
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202
電話 0725-45-7357 090-1225-9159
E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

公園協議会の動きと活動

公園協議会の7月、9月の活動は、西側草原と9月に開催される「みどりの観察会」の園路の草刈を行いました。

8月4日は今年度第1回の「里山講座」、9月16日には協議会主催の「みどりの観察会」を開催。観察会には募集人員30名のところ40名を越す申し込みがあり、4グループに分けて案内。FANクラブからも7名の会員が2グループの案内役を務めました。

サギソウの惣ヶ池湿地移植成功

この夏、惣ヶ池湿地では移植してきたサギソウが12株開花し、8月の観察会でみなさんに楽しんで貰いました。

2年前に3球、1年前に10球、今年は20球を移植し、2年前には1株が、昨年は4株が開花し、移植適地と判断して今年は更に移植面積を拡大しところ、過去に移植したところでは増殖も確認されました。

和泉市内の園芸店に勤める青年Tさんが「信太山丘陵のサギソウを残すために無菌培養研究をしたい」と今は亡き前理事長の花田茂義さん宅を訪ねてきたのは確か2008年の夏でした。

信太山丘陵の遺伝子を絶やさないためにそれも一つの方法と花田、島崎、田丸、T青年の四名で「SSプロジェクト」（花田さんはこんなネーミングが好きな方でした）を立ち上げ、岡山県立自然保護センターのサギソウ見学に行き、信太山丘陵のサギソウ自生地における受粉と種子採取を行い、T君による無菌培養研究がはじまりました。

Tさんがフラスコの中で発芽させたサギソ

ウをプランタに移植し、花田さんとTさん二人で毎年3月に植替えを続けながら増やしてきた無菌培養サギソウは400株にもなりました。

6年後の2015年3月末、はじめての現地移植（20球）を市有地内湿地で試みましたが発芽せず失敗。惜しくも花田さんはその年の9月に他界されたため、翌年3月に培養サギソウを引き取り、移植地を替えて2ヶ所移植しましたが、その年も開花を見ることはできませんでした。3年目の2017年には惣ヶ池湿地の3ヶ所を含めて4ヶ所で移植したところ惣ヶ池湿地の移植場所C地点で一株が開花。4年目の2018年には同C地点で移植面を拡大して移植したところ、前年の場所と拡大した場所で4株が開花しました。

2019年は惣ヶ池湿地のC地点で面積を広げて移植した結果、C地点だけで12株が開花しました。この場所で更に移植面積を広げていければと考えています。



惣ヶ池湿地に移植した無菌培養サギソウ

絶滅を脱したシソクサ

葉を摘み取り揉んで嗅ぐと甘いシソの香りがするシソクサ。2000年の大阪府レッドリストでは絶滅となっていたものが惣ヶ池湿地で復活したことは、みなさん既にご承知のことです。

FANクラブが惣ヶ池湿地の保全に関わっ

た2014年には確認されたものの翌年、翌々年は1本も見つかりませんでした。

その次の年（2017年）も9月半ば頃に咲くはずの花は10月になっても見つけることができませんでした。

「今年なんとしても見つけなければ絶滅か？」と悲壮感が漂うばかり。

その年の10月半ば、二泊三日のキノコ調査の仕事で長野県に出かけました。幸運だったのは同行したM氏が惣ヶ池湿地のシソクサをよく知る人で「大阪へ帰ってから一緒に探してみませんか」と言ってくれたことです。

10月下旬と一緒にシソクサ探しをしました。その結果、3株が排水溝脇で見つかり種を採取できたことは「ニュース25号」でお知らせしました。さらにその翌年に種を蒔いたものが2, 3株出て、葉を摘み取られて丸坊主になったことは「ニュース27号」でお知らせしました。

その年の夏、公園協議会主催の「里山講座」で「湿地の植物」について話す機会があり、丸坊主になったシソクサの話をしたところ、「協議会」の作業部会長である大阪府立大学大学院教授の藤原先生から「大阪自然史博物館で種子を保存して貰えないだろうか」という話がありましたが、最終的に「大阪府立大学で預かりましょう」ということになり、M氏と藤原先生にその年に採取できた僅かな種子を渡し、現地にも残りを蒔きました。

その結果は、現地と府大では発芽せず、M氏のケース内栽培のみが成長して開花し、種子が沢山撮れました。その種は府大の藤原先生にも渡しておきました。

今年は、昨年採れた種を現地に蒔かず、栽培用ポットに蒔き、成長したものを現地に移植すべく植え付けましたが失敗しました。

この8月に入り、大阪府大の藤原先生から「シソクサが成長したので、現地植え付けませんか」と

電話があり、お盆の翌日16日に二人で惣ヶ池湿地の二か所に植え付けました。

先生に育てて

いただいたものは5～10cm位に成長したものが30株ほどありました。

シソクサの種は「フツ」と吹けば吹き飛ばすように小さな種です。これまでの場所では雨が降れば流される恐れがあるため、流される心配のない場所に別の植え付け場所をつくりそこにも植え付けました。

そのシソクサが9月15日に開花しはじめほとんどの株で開花しました。10月半ばくらいまでは咲くのではないかと思います。

なんとか絶滅の危機を脱した感があり安堵しています。M氏、藤原先生に心より感謝申し上げます。

みなさんも見に来てください。但し、葉を摘んで丸坊主にしないようにしましょう。

移植後開花したシソクサ



合同観察会と地黄湿地の観察会

8月の観察会はトラスト協会との合同観察会と自主企画で能勢町にある「地黄湿地」の

観察会を実施しました。

合同観察会はトラスト協会関係者が6名、FANクラブ会員9名が参加し、惣ヶ池湿地のサギソウ、タチカモメヅルなどを観察しました。

自主企画の地黄湿地見学会は、会員12名和泉市役所職員（里山講座開催候補地下見）

地黄湿地の観察会に参加して

の15名が参加し、トラスト協会職員の藤原さんに案内して貰いました。

稲井 佳奈枝

8月23日(金)の朝。ふるさと館に集合し、車3台に分乗して、大阪最北の能勢の地黄湿地へ観察会に行ってきました。そこは1haに満たない貧栄養の湧水湿地で、97種類の植物が自生し、大阪府緑地環境保全地域に指定されているそうです。

この日は雨天だったこともあり、鬱蒼とした感じの森の中に地黄湿地はありました。

周囲の森とは対照的で湿地内は明るく拓けていて、十分に陽が差し込める空間がありました。当日現地案内をしてくれたトラスト協会の藤原さんに聞くと、つい最近大がかりな伐採をしたばかりということでした。

最初に目についたのは木道で、それはまだ新しく丈夫で湿地内を横断していて、木道を進んだ先でサギソウが三輪咲いていました。もっと近くに行って見てみようと、木道を下りて湿原を歩き近付き写真を撮りました。

以前からモウセンゴケのことが気になっていたのですが、その場所を藤原さんに尋ねると、サギソウに近付いた時に歩いた湿原の下にたくさんあったのです。皆が既に踏みしめている後だったので、惣ヶ池湿地での扱いの違いに少し驚き、同時に土足で踏み込んでしまったことに申し訳ない気持ちにもなりました。

その他には、キガンピやワレモコウ、ホザ

キノミミカキグサ、イヌノハナヒゲ、コシロネ、ミヤマウズラやヌマトラノオなどが生息しているのを確認できました。惣ヶ池湿地でも見たことのある植物の近縁種が多く、やはり同じ湿地同士、環境が同じならば生息するものたちも似通ったものが多いのだということを感じました。

お昼過ぎには湿地の近くにある古民家「SASTOYAMA楽舎」を訪問しました。古民家に行く道中には栗の並木道があり、落ちている毬栗を踏みしめながら苑路を歩きました。ここではキツネノカミソリがあちらこちらに咲いていました。古民家では、座敷でお昼ご飯を広げさせていただきました。床の間に飾られている鹿の頭におっかなびっくりしながらも、アニミズム的な土着の暮らしが漂う古民家は何処か居心地が良く、我々を温かく包み込んでいただけの気がしました。



歌垣 古民家のSASTOYAMA落舎

帰る道中には野間の大ケヤキに立ち寄りました。野間の大ケヤキは国の天然記念物で、高さ27m、幹回りの長さ13mの巨樹で、樹齢は1000年とも言われているそうです。毎年4月下旬～7月下旬にはアオバズクが繁殖のためにやってくるそうで、資料館には滞在中の生態がわかるパネルなども展示されていました。またの機会があれば、今度は子育ての時期に訪ねてみたいと思います。



お知らせ

11月16日(土)・17日(日)
大阪自然史フェスティバルに参加します。
場所：大阪市立自然史博物館